

## 第2号発刊によせて

生命健康科学研究所長 杉山達夫

生命健康科学研究所は、“本学の今後拡大強化すべき教育研究分野とその具体的方策を調査研究し、あるべき教育研究組織体制についての基本設計を提案する”との任務を帯びて一昨年6月に設置された。この所期の目的を達成すべく、当研究所は、“学術領域を横断的に統合し、人の生命や健康に関わる諸問題を科学的に解決し得る能力を有する人材の養成にある”との認識に立ち、具体的な体制として生命健康科学部を設置すべきであるとの結論を得た。幸いにも、この提案型学部を設置が認められ、この4月に学部として開設されることになりました。

当研究所のもう一つの目的は生命健康科学部開設を期に、研究所として生命健康科学に関する具体的な研究を進めることである。そのため、当研究所では、研究体制の整備を図りつつ、生命健康科学の領域での科学技術の学術基盤の調査研究活動を一層強化することが肝要であると考え、本年度においては、この目的の達成に全力を注ぎました。

その主要な活動は、1) 中長期の視点に立つ研究所の研究計画立案とこれに沿った課題研究の開始、2) 『健康づくりと生活習慣病の予防－今なぜ予防が大切か－』をテーマとするフォーラム開催および『科学技術政策とバイオテクノロジー戦略にかかる講演会』の開催、でありました。上記活動は、いずれも当研究所の進むべき方向付けに大きく貢献するものであり、社会への還元を主旨とする研究所の学術研究の方向付けに大きな役割を果たしたものと信じております。

本号には、当研究所の本年度の活動の一部を紹介すべく、フォーラムでの話題および当研究所の萌芽研究課題のこれまでの成果を中心に集録いたしました。この冊子が研究所紀要の範疇を超え、多くの方々に一読賜わり、当研究所へのご理解とご支援を賜りますよう心からお願いする次第であります。